

2013 年 7 月以降のアムール川流域の多雨について

7 月以降、アムール川流域の広い範囲で多雨となった。このため、ロシア極東域では、アムール川の水位が上昇し、洪水の被害が発生している。

1. 天候の経過と被害状況

アムール川流域（モンゴル東部、中国北東部から東シベリア南部に広がる領域）では、7 月以降、広い範囲で雨の多い状況が続いている。アムール川流域の 39 の観測地点で平均した積算降水量をみると（図 1）、1996 年以降で最も降水量が多く、1996～2012 年の平均値（183mm）の約 2.1 倍（381mm、9 月 18 日現在）となっている。

アムール川の中流・下流の地域では各地で洪水が発生し、過去最高の水位を 1.5～2m 上回っている。ハバロフスク市での水位は、9 月 3～4 日に 808cm となり、これまでの最高記録 642cm（1897 年）を上回った（ロシア水文気象環境監視局）。

ロシア極東域では、13 万 5 千人以上の住民、1 万 4 千の家屋、総延長 1600km に及ぶ道路や 170 以上の橋が洪水の影響を受け、アムール川下流のコムソモリスク・ナ・アムーレ（Komsomolsk-on-Amur）では、680 棟以上の家屋が浸水し、約 2700 人が避難した。現在、ロシア極東域では、約 4000 の家屋、60 以上の道路区域、80 の橋が浸水した状態となっている（ロシア政府）。

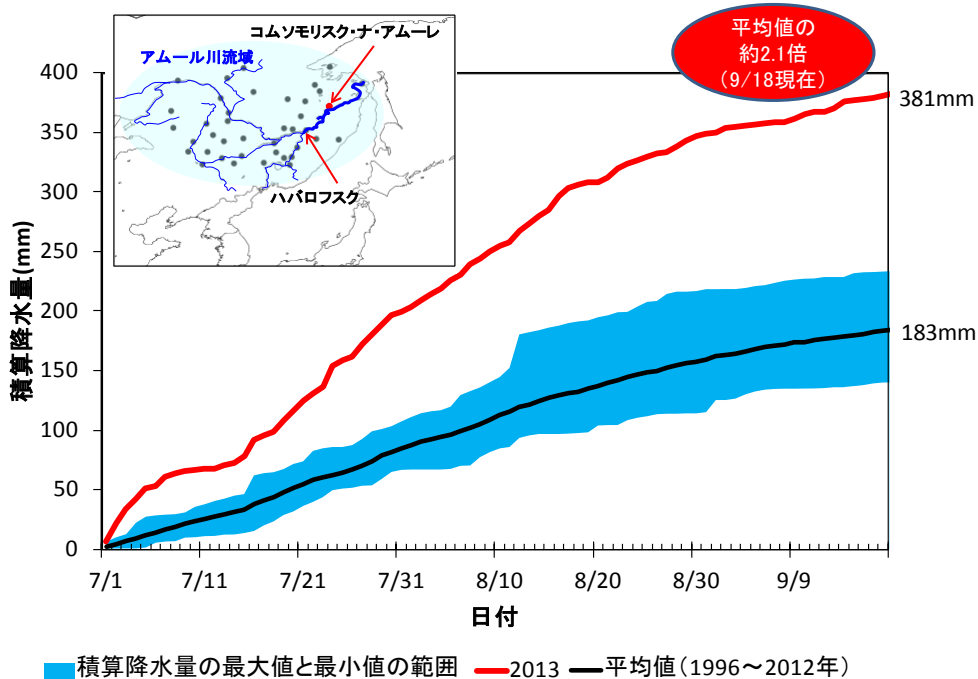


図 1 アムール川流域の平均積算降水量

アムール川流域の 39 観測地点（地図の黒丸）から算出した平均積算降水量。青い領域は 1996～2012 年までの最大値と最小値の範囲、赤実線が 2013 年の値、黒実線が 1996～2012 年の平均値を示す。左上の地図の水色の領域は、アムール川流域のおおよその範囲。

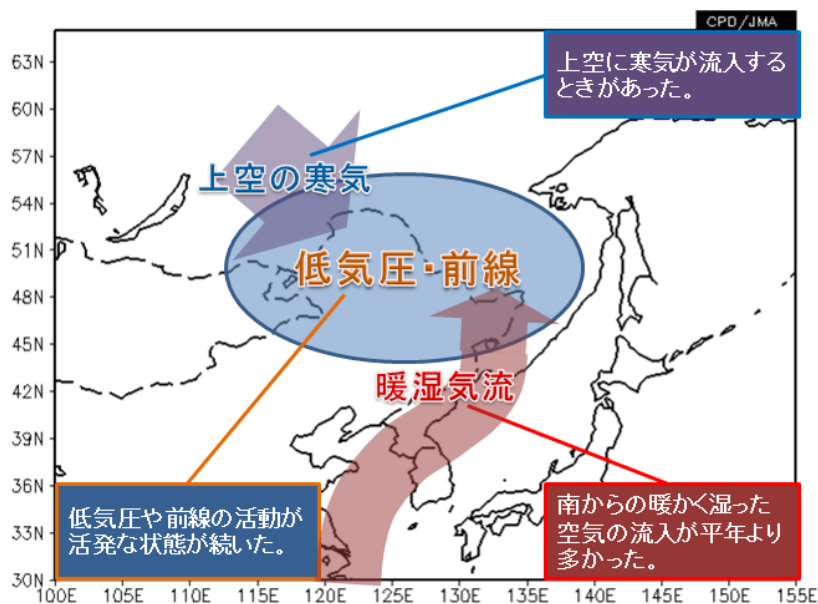


図2 大気の流れの特徴 (2013年7月～9月上旬)

2. 大気の流れの特徴 (図2)

7月以降、アムール川流域では、南からの暖かく湿った空気の流入が平年より多く、また、北側の寒気が平年より強かったことから、低気圧や前線の活動が平年と比べて活発な状態が続いた。このため、アムール川流域の広い範囲で多雨になったとみられる。

3. 今後の見通し

気象庁の数値予報モデル (1か月予報モデル) の結果によると、アムール川流域では、今後2週間は気圧の谷の影響で平年より降水量がやや多くなるところがあるものの、広い範囲で多雨となる可能性は低いとみられる。

※気象庁ホームページ「世界の異常気象」

(http://www.data.jma.go.jp/gmd/cpd/monitor/extreme_world/index.html)

において、最近の世界の異常気象や気象災害の状況を週、月、季節別にまとめていますので、あわせてご利用ください。

[この件に関する連絡先：気象庁 地球環境・海洋部 気候情報課 異常気象情報センター
03-3212-8341 内線 3158]